

研究構想図

小学校 学習指導要領 算数の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

児童の実態

【昨年度の全国学力調査より】

- ・領域別に全国平均正答率と比較すると、全体的に下回っており、正答数が0～7問のD層の割合が全国平均より9.4ポイント多くなっている。
 - ・国語の結果で「読むこと」領域が低い傾向にあるが、算数でも、文章題で何が問われているのかの理解ができていない。
 - ・基礎基本が定着しておらず、既習事項の活用が難しい児童が多い。
- ⇒これらの実態と、授業中の発言の頻度に児童により大きな差があることから、学習内容が理解できず、授業に参加しているようでしていない児童が多いのではないかと考えられる。児

研究主題

自分の考えを言葉と数で表す力を育てる算数授業

目指す児童像

主体的に授業に参加し、基礎基本の力を伸ばす児童
考えたことを式や図、言葉を使って表現する児童

研究仮説

教師が発問や言葉かけを吟味し、児童全員が参加できるような授業の工夫をすれば、主体的に考え、表現する力が育つだろう。

研究の視点

研究の視点	
視点1	視点2
教師の発問、言葉かけ	授業技術（しかけ）